E 4　一戸建住宅における屋根意匠の多様化現象と居住者心理との関係（第１報）

平安女学院短大　松原小夜子

目的：近年の一戸建住宅の外観意匠は，本瓦葺きの入母屋屋根やドーマー付きの切妻屋根など，多様化が著しい．戦後の住宅意匠論はモダニズムを基調としてきたが，今日の多様な展開はモダニズムの枠組みからかなり逸脱している．この現象は，意匠決定の背景に，“機能”では包含しきれない第二のファクターがあることを予測させ，それは何なのかをつきとめることは今後の住宅意匠のゆくえを展望するうえで重要な課題だといえる．そこで本研究では，特に屋根意匠の多様化現象に着目して，その実態を整理するとともに，多様化がもたらされる背景を居住者の心理的側面から明らかにすることを目的としている．屋根意匠および居住者の心理的側面に着目した理由は，本研究に先だって行った農村住宅および地方都市住宅の外観意匠の研究結果に基づいている．本報告では，まず屋根意匠の多様化の実態について整理し，モダニズムから逸脱する諸傾向の整理を試みる．

方法：ハウスメーカーの木造在来工法住宅69例，同じくプレハブ住宅201例，建築家の木造在来工法住宅137例，同じく鉄筋コンクリート造住宅161例の合計568例を，ハウスメーカーのパンフレットと，ハウジング情報・住宅特集・住宅建築の各誌から収集し分析した．

結果：屋根意匠の多様化を居住者心理から考察するには，1.日本の伝統的様式を用いた格式的意匠，2.煙突やドーマーなど装飾を付与した洋風模倣の意匠，3.屋根形状を変形させて形態に特色を持たせた意匠，4.屋根形状を複合させて形態に特色を持たせた意匠，以上の４つに着目すべきことが明かとなった．したがって，これらの意匠と，居住者の諸属性や住意識との相互関係を検討することが今後の課題である．